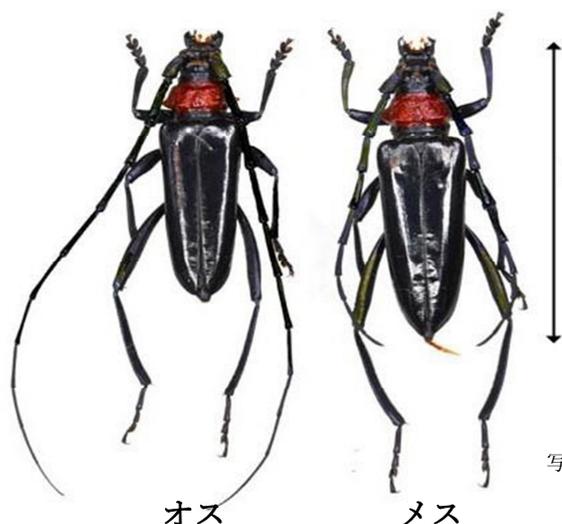


<重要>特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の 早期発見および殺虫について

～情報提供および殺虫、被害木の対応にご協力ください。～

本年7月、市内で初めて特定外来生物クビアカツヤカミキリの成虫が確認されました。本種の幼虫はサクラ、モモ、ウメなどバラ科の樹木に寄生し、内部を食い荒らすことで枯らせてしまう害虫です。

1.クビアカツヤカミキリ(成虫)※1



写真提供：茨城県

- ・体は黒く光沢があり、鮮やかな赤い色をした胸部(クビの部分)が特徴です。
- ・成虫は5月中旬～8月頃に現れ、寿命は約1か月です。
- ・バラ科樹木の樹皮の割れ目などに1～1.5mmほどの卵をたくさん産みます。

※1 写真は、最大サイズの個体をほぼ実物大で示したものです。

2.クビアカツヤカミキリ(成虫)を見つけた場合

クビアカツヤカミキリの成虫は動きが素早く、広範囲に飛んで移動します。見つけた際は逃がさないように、たたきつぶす・踏みつける・市販の殺虫剤を使用するなどして、殺虫してください。

殺虫後は死骸を保管のうえ、すぐに生活環境課へお持ちください。

【発見時のご連絡・問合せ先】

桜川市役所生活環境課

電話：0296-75-3111(代表)

住所：〒309-1292 桜川市岩瀬64-2

開庁時間：平日 8:30～17:15 (土日祝日・年末年始を除く)

◆ クビアカツヤカミキリ(幼虫)の対処方法などについては、裏面をご確認ください。

3.クビアカツヤカミキリ(幼虫)



写真提供：茨城県

- ・ 樹木の中で生活するため、普段目にする機会はありません。
- ・ 4月～11月頃にかけて、**木くずとフンが混ざった「フラス」**を排出しながら活動します。

4.フラスについて※2



写真提供：茨城県

- ・ 木くずと幼虫のフンが混ざったもので、特徴的な「**あらびきのひき肉**」状をしています。
- ・ 幹や太い枝の表面に見られるほか、雨風によって崩れ落ちたものが、幹の分岐部や根本、地面に大量に堆積していることがあります。

※2 フラスは他の昆虫も排出するため、必ずしもクビアカツヤカミキリによるものとは限りません。

5.クビアカツヤカミキリのフラス(幼虫)を見つけた場合

他の昆虫によるフラスとの判別が難しい場合がありますので、市でも確認を行います。
フラスが確認された樹木の種類も併せて、すぐに生活環境課へご連絡ください。

フラスがクビアカツヤカミキリによるものと判明した場合は、樹木の所有者または管理者の方が、下記にならって直ちに殺虫してください。

- (1)クビアカツヤカミキリの幼虫は、フラスの排出孔から殺虫剤を注入するなどして殺虫します(通常1回の対応だけでは完全にいなくなることはないため、新たなフラスが出ていないか継続して見回りを行い、殺虫することが大事です)。
- (2)幼虫が羽化して飛び出さないよう、被害木にはネットを掛けます。
- (3)被害が進行した樹木は、殺虫剤が効きづらく、倒木や落枝の危険もあるため、伐倒のうえ焼却または細かく破碎します。さらに、根の部分にも幼虫が入り込んでいる場合があるため、抜根して同様に処理するか、コーティング剤等で被覆します。

6.禁止事項

クビアカツヤカミキリは特定外来生物に指定されているため、成虫・幼虫のいずれであっても、生きたままの運搬や飼育など法律で禁止されています。